

資料 1-4 研究基盤整備·高度化委員会 (第3回) H30.6.18

# 大型分析機器共用事業への取組

2018.6.18 日本電子株式会社

オープンイノベーション推進室 杉沢 寿志

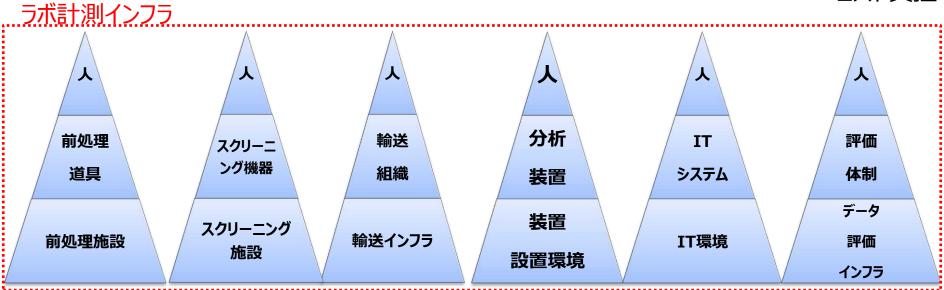
### ラボ計測の分析ワークフロー

#### ✔ラボ計測の分析ワークフロー最適設計の観点

- ・各部分を実施する組織や人の役割分担の最適設計
- ・コスト負担(受益者からワークフローの各部の実施者へのコスト負担の仕組み)の適正化
- ・インフラ維持と高度化への適正な投資の実施
- ・IoT技術を活用することで、ワークフロー運用コストの劇的改善を図る。

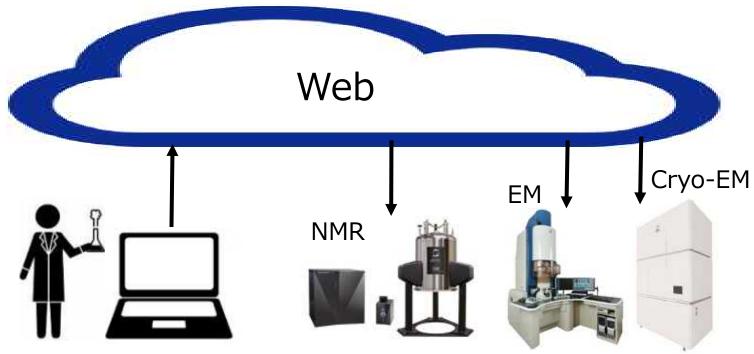


コスト負担



### リモートシェアリングシステムの3類型

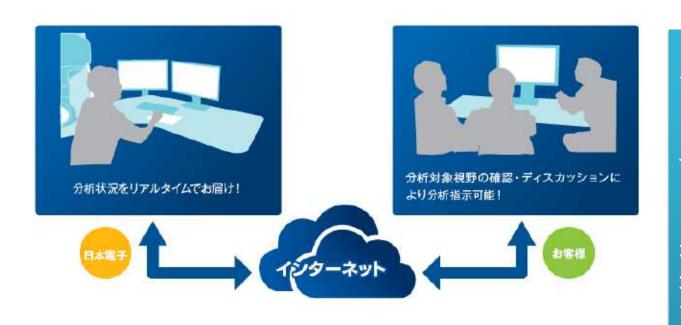
・リモートシェアリングの実現方法は3類型(EM, NMR, Cryo-EM)に分類できる。



	形態	計測	前処理	試料選別	特徴
EM型	Web受託	手動	あり	なし	オペレータが試料を直接操作する必要あり。どの機器でも可。
NMR型	シェアリング	自動	なし	なし	オペレータが試料を直接操作する必要なし。対応機器のみ。
※Cryo-EM型	次世代シェアリング	自動	あり	重要	本測定のコストが高い、前処理の成功確率が低い。

#### ※技術開発課題あり、ワークロー開発必須

### Web受託分析サービス





✔分析試料は事前に送付し、計測拠点で前処理

✓複数人·複数箇所で立 ち会い測定に参加

✓ユーザはWEB画面を見ながら分析領域を指定オペレータと対話しながら分析可能

✓データはセキュリティを 担保したオンラインスト レージ経由で配信

Solutions for Innovation JEOL

### Web受託分析サービスイメージ



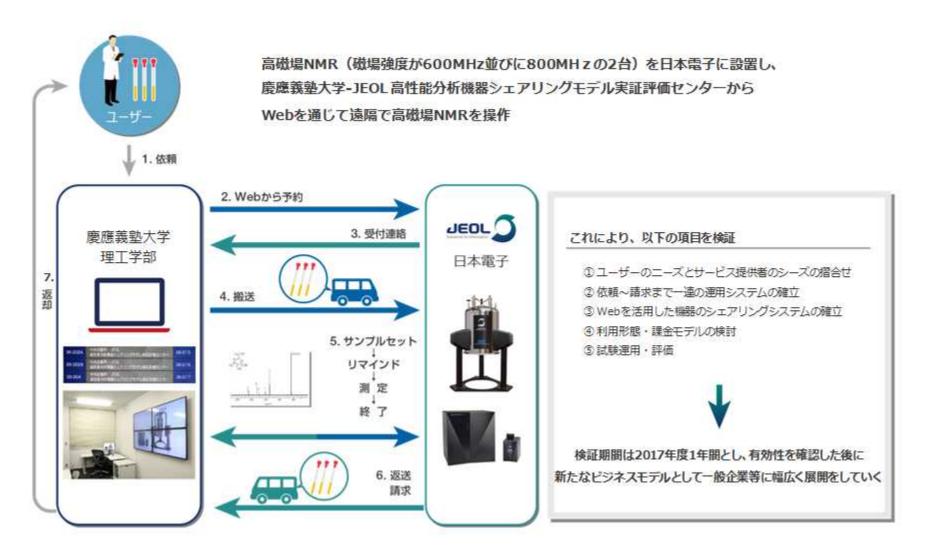




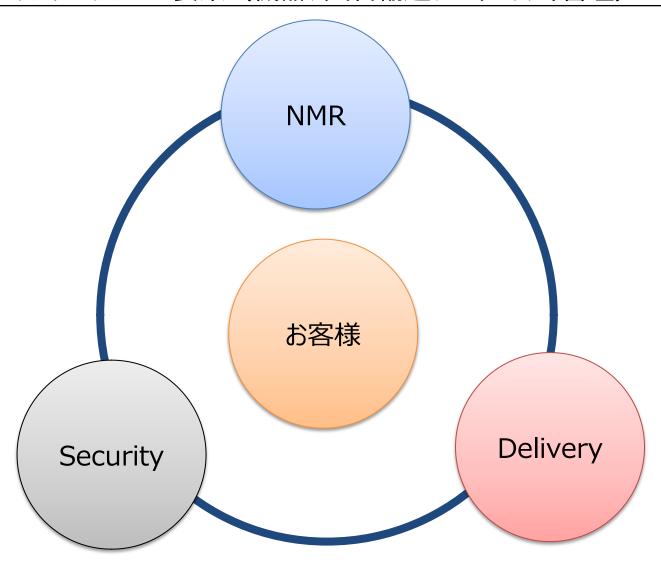


### 慶應義塾大学-JEOL 高性能分析機器シェアリングモデル実証評価センター

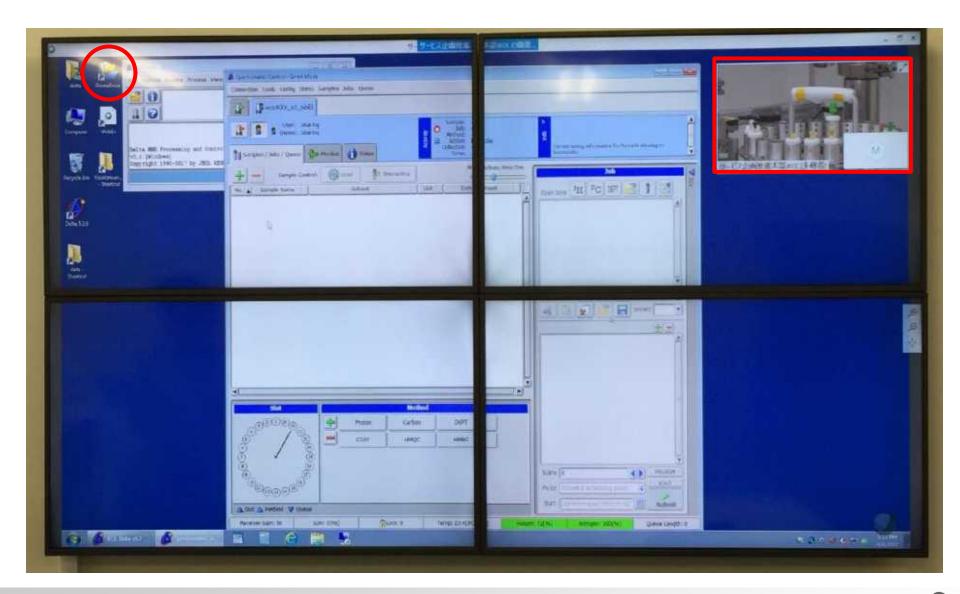
・NMR型大型分析機器におけるリモートシェアリングシステムの実証試験



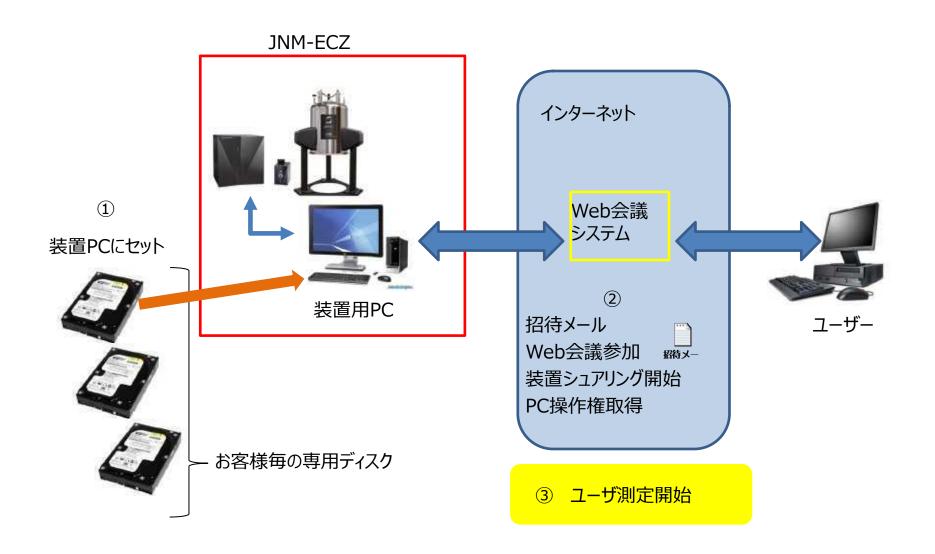
# NMRシェアリングモデルの3要素(機器、試料輸送、セキュリティ管理)



## シェアリング画面



### シェアリングシステム 1



### シェアリングシステム 2

#### JNM-ECZ



④測定データをオンラインストレージに移動 装置PCからお客様ディスク取外し インターネット

② Web会議終了(シュアリング終了)

3

オンラインストレージ



ユーザーは限られた期間オン ラインストレージから測定デー タをダウンロードできる。

① ユーザー測定終了

Solutions for Innovation JEOL (

### サンプルデリバリー

- ·BioPouch梱包
- ·BioBOX輸送容器
- ·温度管理

11







### 大型分析機器のリモートシェアリングシステム

#### ✔現状

- ・Web受託は、現状のWEB会議システムで実現可能。
- ・NMR型(前処理なし)リモートシェアリングシステムは機器が対応していれば実現可能 ただし、試料輸送システムに関しては、デリバリールート確保の実証試験が必要
- ・クライオ電顕型 (試料選別必須) リモートシェアリングシステムは機器の対応に加え、 試料選別ワークフローの確立が必須。

#### ✔課題

- ・リモートシェアリングシステムを想定した機器開発 既存品については、Web受託型のみ可能だが、システムアップグレードで対応可能な場合あり
- ・リモートシェアリングシステムを想定した機器管理システムの構築、ユーザ教育手法の確立
- ・データマネージメントシステムの構築
- ・前処理、試料搬送、試料選別の自動化
- ・複合分析(複数の分析機器を組み合わせて分析するワークフロー)の効率化に向けたシステム化
- ・このようテクノロジーを活用した高効率ラボ(スマートラボ)を運用できる新世代ラボマネージャの育成

Solutions for Innovation JEOL